

# 宮下商店



桜島大正大噴火の被災者や戦後の入植者が主に移住開拓して創りあげられた大野地区。

その地区の入り口にあたる場所に宮下商店は今から70年ほど前に店を構えた。

創業した祖父・宮下美行は鹿屋市高隈町出身だが戦後間もない頃「高峠付近に店がない、これからは人の往来も増えるし、店があれば地区の人の為にもなる」と現在の峠の場所に店舗兼住宅を建てた。

それ以来生活雑貨をはじめ路線バスの切符販売、電報、電話の取次ぎ、新聞配達、そしてドラム缶で量り売りのガソリン販売等を手掛けるようになり地域の人たちが集まる場所となった。

また(株)ジャパンファームが高峠に進出する事になった時には地区と企業の橋渡し役にもなった。

父・宮下省司の代となりガソリンスタンドを建設し本格的に給油所として始動した。

峠の頂上にある事から、道中ガス欠になったので助けてほしいと夜中にお客さんが来て出勤する等、【困っ

た時の宮下商店】として商売を続ける。

その後はジャパンファームの国産鶏肉販売、更に鶏肉を宅配便で全国へ発送する事業も始め全国の皆さんへ鹿児島島の味を届けられるようになった。

30年ほど前には高冷地ならではの高原人参栽培にも初めて取り組み大野原の人参は甘いと皆さんに知ってもらえるようになった。

2008年頃からはサツマイモの栽培&焼き芋販売をはじめた。

販売当初はスーパーで10パック陳列しても2、3パックしか売れない日が続いたが、買ってくれたお客さんが美味しかったとリピーターになってくれ、次第に口コミでの広がりがあり多くの皆さんに親しまれる【宮下さんの焼き芋】になった。

2021年には故安倍晋三元総理大臣にも焼き芋を召し上がっていただき、美味しかったと直接電話をいただき言葉交わした事は末代までの宝物である。

これからも地域密着の精神で商売を続けていきたいと思う。

# つらさげの里<sup>さと</sup>うのばい



大野地区をもっと色んな人に知ってもらいたい!という地区有志の人々で活動を行っているのが「つらさげの里うのばい」です。「つらさげ」というのは、大野原の鹿児島弁訛りの読みで、古くは陸の孤島であった大野をややからかうような意味合いがあったことから、それを逆手に取った形でブランド名として使われるようになりました。

現在、つらさげ芋の焼き芋をはじめとした大野の商品には、ブランド力向上のため、商標として取得した「うのばい」のロゴがつけられています。

はじめは垂水市の道の駅やスーパーなどの商業施設での販売がほとんどでしたが、近年ではテレビ番組でも特集が組まれるなどメディアへの露出や、ふるさと納税の返礼品として商品を出荷することにより全国規模で認知されるようになりました。

また、大野地区の入り口に高隈山系をバックにした「つらさげの里うのばい」看板を設置したり、インスタグラム等のSNSも活用したりすることで、より多くの人々へのばいブランドを知ってもらうための情報発信も積極的に行っています。